

マルチメディアデイジー図書講演会

私の本、私が読める教科書—読みに困難のあるこどもへの支援—

社会福祉法人 光生会 都城子ども療育センターひかり園
〒885-0022 都城市小松原町 1141

助成事業の概要

平成 20 年に「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」（教科書バリアフリー法）が施行されたのを機に、日本障害者リハビリテーション協会からマルチメディアデイジー教科書が提供されるようになりました。しかし、宮崎県ではまだまだ普及していません。当園を利用する子どもたちも就学時には有効になることが考えられ、まず保護者や支援者が活用事例を知り、実物に触れて、就学後への見通しを持てるよう、また地域の先生方に、子ども達が持つ読み書きの困り感について知っていただき、その支援について共に考える場を作りたいと、8月4日（土）に講演会を開催しました。

講師は、ディスレクシア当事者としてカミングアウトされている岐阜市立岐阜特別支援学校の神山忠先生、デイジーを実際に使っておられるお子さんの保護者、通級学級でデイジー教科書を使っておられる小学校の先生、そしてデイジーコンソーシアム前会長の河村宏氏、日本障害者リハビリテーション協会の野村美佐子氏、長田江里氏にお願いして、マルチメディアデイジーの展示とデモンストレーションをセットにした講演会にしました。

事業の成果

参加者は、都城市内のほか宮崎市、小林市等近隣市町の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の先生方が 35 名、そのほか保育士や福祉関係

者、研究者等、当日のボランティアスタッフも含め総勢 103 名でした。ほとんどがマルチメディアデイジーについて、またディスレクシアの困り感について初めて知ったという方でした。現物の展示とデモンストレーションも好評で、早速利用を申し込まれた方もおいでです。

以下、参加者のアンケートの一部を紹介します。

- ・デイジーについてすごく勉強になりました。特別支援の先生や保護者の実体験のお話はとても貴重で、言葉(デイジーという)は知っていましたが、実際のを知らなかった私にとって、すごく分かりやすかったです。お話にもありましたが、なかなか気づかれずに困っている発達障害の子どもたちに、勉強の楽しさ、また本人や保護者の不安の軽減につながられるよう、私もデイジーについて学び、情報を伝えていければと思いました。
- ・学習障害は見え方もそれぞれ違うので、その子にあった支援が必要だとわかりました。支援を受けることで自信もついて将来の可能性もどんどん広がると思います。デイジー図書がすべての学習障害の子たちに使われるようになればいいなと思います。
- ・初めて参加させていただきました。開会から閉会まで感動の時間でした。講師の先生方、事例発表の方々のお話を聞いて、教育現場の状況を見直していくことを心の中で決意しました。
- ・「先生の言葉ひとつで子どもを傷つけることがある」この神山先生の体験を一人でも多くの小中学校の先生方に伝えていきたいと思っています。
- ・最近、知的段階（発達検査の結果）と学習態度・学力とのギャップが大きい子が気になっていまし

た。その子たちの困り感をきちんと理解し、みんなと一緒に学習できるよう、工夫していきたくて思いました。有意義でした。ありがとうございました。

・保護者の方が家庭で使われたケースと、学校で先生が使われたケースとあって、とても分かりやすかったです。ありがとうございました。

者から「わが子に使えるかもしれない」との声も寄せられました。当法人においても、パソコン等ハード面の手当も検討しつつ、卒園児、これから就学する子供の支援につなげていくケースも生まれそうです。

成果の広報、公表

講演会が終了したばかりで、まだその成果の公表の具体化はできていません。しかし、講演会の開催案内そのものに、ディスレクシアの子ども達の困り感と、その支援ツールとしてのマルチメディアデイジーの存在を書きました。そういう意味で、開催案内チラシも講演内容の広報の役割を果たしたものと思われれます。開催案内チラシは都城市内の小中学校、高等学校、特別支援学校等全てに配布し、ひかり園の在園、卒園児や保育関係団体等で 500 枚ほどは配布しました。卒園児や学校等には郵送での案内をし、また療育や教員向けイベントで配布しました。現実には、当日は都合が悪くて参加できないが、詳しく教えて欲しいという声を頂いています。都城市において初めて取り組んだテーマであり、今後の展開を具体化していく中で、今回の講演会の成果をさらに広く公表し、より多くの関係者に情報を伝えていきたいと考えております。

今後の展開

すでに複数の学校の先生から日本障害者リハビリテーション協会にマルチメディアデイジー教科書・図書の間い合わせが行っていると報告を受けています。必要とする子供の身近なところにこの情報が伝わり、子ども達の支援につながっていくことを願ってやみません。参加した卒園児の保護